

恩に報ず — 出家得道 棄恩入無為眞実報恩者 — (二版)

心こころに湧わくは貪欲とんよくと

気き終しまを通とおせぬ瞋いかりなり

道理どうりを知らぬ癡おろかさも

無始むしの病やまいの貪瞋癡とんじんち

漏れもを尽つくして歩あゆむべし

三毒さんどく

未いまだ漏ろ尽じんは明あきらめざるも

一いつ生しょう参さん学がく大事だいじなり

育はぐくみ受うけて大過たいかな無なし

敬うやまい弥いや増ます父ふ母ぼの恩おん

心こころに慚ざん愧きを抱いだきつつ

生いかされ来きたるは有あり難がたし

有愧うぎの人ひとは涅槃ねはんあり
衆生しゆじよう・国主こくしゆの恩おん

法ほうを重おもくし恩愛おんない軽かろし

見佛けんぶつ聞もん法ぼう大恩だいおんなれば

日ひ日びの行ぎよう持じに報謝ほうじやせん

有智し若聞おんすべ即能ほう信解しんげ

四恩しおん全ぜんて報ほうず

私わたくしに費つひやさざらん

宮城県大崎市 瑞川寺住職 木村謙文